

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：こどもっと保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：勝浦 いづみ	定員（利用人数）：30名 （利用人数：31名）
所在地：〒234-0054 横浜市港南区港南台5-5-12 1F	
TEL：045-831-5450	ホームページ： <a href="http://www.kodomotto.jp">http://www.kodomotto.jp</a>
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2016年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：NPO法人港南台こどもっと	
職員数	常勤職員：12名 非常勤職員：13名
専門職員	保育士：18名 保育補助：3名
	栄養士：1名 調理員：2名
	事務員：1名
施設・設備の概要	保育室：1室 トイレ：3ヶ所
	調理室：1室 事務室：1室
	職員休憩室：1室 園庭：有

③ 理念・基本方針

理念

- ・子どもの育ちを支えます
- ・保護者の子育てを支えます
- ・子どもと子育てに優しい社会を作ります

基本方針

- ・当園は、保育の提供にあたっては、入園する子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進することに最もふさわしい生活の場を提供するよう努めます。
- ・当園は、安心と安全に配慮した環境の中で健やかで豊かな心と体が育つよう保育を行います。
- ・当園は、社会の期待や願いに応えられる保育活動をすすめ、子ども・保護者・地域に信頼されるよう努めます。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

こどもっと保育園はJR港南台駅より徒歩4分。近くに公園も多く緑の多い閑静な住宅街にあります。木のぬくもりのあふれる明るく広いプレイルームで乳幼児がゆったりと過ごすことができます。

私たちは、子どもが現在（いま）を幸せに生活してほしい。未来（あす）をしっかりと生きぬいてほしいと願っています。その、いしずえとなる乳児の時期（0歳、1歳、2歳）の保育をていねいに行っていきます。

愛情のこもった養護と安心して夢中になって遊ぶ体験の積み重ね、そして、この時期に信頼できる大人との愛着関係等をよりどころにして、子どもたちは自己肯定感をもった一人の人として成長していきます。

具体的な保育の進め方①育児ケア担当制・・・その子の生活を深く把握するために、食事、排泄、睡眠、着脱などの援助が必要な行為に計画性・継続性を持ってかかわる②育児の手順や順番を同じにする③その育児行為によって、保育士対子どもとの割合をかえていきます。④楽しいことや好きなことに集中して遊びながら、さまざまな見通しを立て、工夫したり、試行錯誤したり、新たな発見をしていく、そういう環境を大事にしていきます。⑤年齢や発達に合った良い玩具との出会いを大切にします。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和5年7月1日（契約日）～ 令和6年3月18日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2018年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)一人ひとりの子どもとの愛着関係を作り、自己肯定感につなげています  
木のぬくもりを感じる明るくゆったりした保育室の中は、子どもの健やかな体、豊かな心が育つ環境となっています。職員は何が子どもにとって良いことなのかを常に考え、愛着関係を大切に寄り添っています。子どもが年齢や発達にあった木製中心の安全な玩具等で遊ぶ体験をしたり、安心して過ごせる環境となっています。子どもを一人の人として尊重し、一人ずつ丁寧に関わって自己肯定感を持てるように援助しています。

2)乳児に特化した保育を行い、職員の育成に取り組んでいます  
園の利用対象は乳児であり、個別に愛着関係がとれるように育児ケア担当制を導入しています。保育の手順をマニュアルで示し、食べさせ方、着替えのしかたなどを学んでいます。望ましい発達の姿を日々考える中で、職員は子どもの成長や変化に気づき、継続性を大切にする事、「一人ひとりを大切に」「丁寧な保育の実践」の保育方針を職員は理解して保育に取り組んでいます。意欲をもって保育を実践し、非常勤職員から常勤職員にステップアップする職員もいます。

3)地域とのつながりに取り組んでいます  
NPO法人としての理念に「子どもと子育てにやさしい社会を作ります」と示し、方針では「社会の期待に応えられる保育」を掲げ、地域貢献に取り組んでいます。園は地域の子どもたちが参加できるように「こどもっとであそぼ」として水遊びや木育（もくいく）ひろば、ベビーマッサージ等を開催しています。「遊びにおいてよ！七夕まつり」に参加を呼び掛けています。また、乳児保育園にもかかわらず実習生受け入れ体制を整備しています。実習生を受け入れて、社会での保育士育成に貢献しています。

4)ICT化による情報共有と効率の推進  
園では連絡アプリを導入し、情報管理と効率化を進めていますが、連絡ノート機能などのICT化は進んでいません。連絡ノートは保護者と保育園との連携に重要なものとなっており、現在は連絡ノートを重視して保護者から状況や相談を記入してもらうようにしています。業務の実効性や保護者の利便性向上、職員の負担軽減を図るため、さらなる連絡アプリの有効活用が期待されます。

5)中長期計画を反映した単年度事業計画の評価の明確化  
中・長期計画の一部を反映し、単年度の事業計画は行事計画に加えて地域支援、職員育成に関連した園内研修など、実施すべき計画を策定しています。長期計画として後

継者育成などの方向を明確に示すことが望めます。また、事業計画は成果等の具体的な目標が無く、実施状況の評価を行うのに難しい状況です。計画には達成時期や担当者などを設定するとともに、実施状況の評価が行える内容にすることが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

開園3年目に行った前回の第三者評価から5年が経過しました。今回の受審はほとんどの職員が2回目となり、過去の経験から見通しを持って取り組むことができました。第三者評価のための話し合いはメンバーや時間設定に工夫をし、限られた期限の中で最善を尽くして取り組みました。

保育内容の項目については、保育目標を達成するための保育方針や手順など、日々の実践の中で自分たちが取り組んでいることについて自己評価することができました。改めて一人ひとりを丁寧に大切に保育するということが共通認識された上で保育がおこなわれてきたことを実感しました。とは言え、職員の異動など体制に変化も起きることを念頭におき、職員が同じ方向を向いて専門性を高めながら資質の向上に努めていけるような取り組みが今後も必要であると考えます。

運営面については、単一法人による一施設運営の課題がいくつか明らかになってきました。今回の評価内容を生かして改善していきたいと思えます。

子育てを巡る社会状況が、刻々と変化していく中で、適切に情報を取得し、子どもにとっての最善の利益の追求と保護者にとっても地域にとっても、なくてはならない保育園として存在し続けていくよう努めます。また同時に、職員にとっても働き甲斐の持てる職場であり続けるよう努力していきます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり